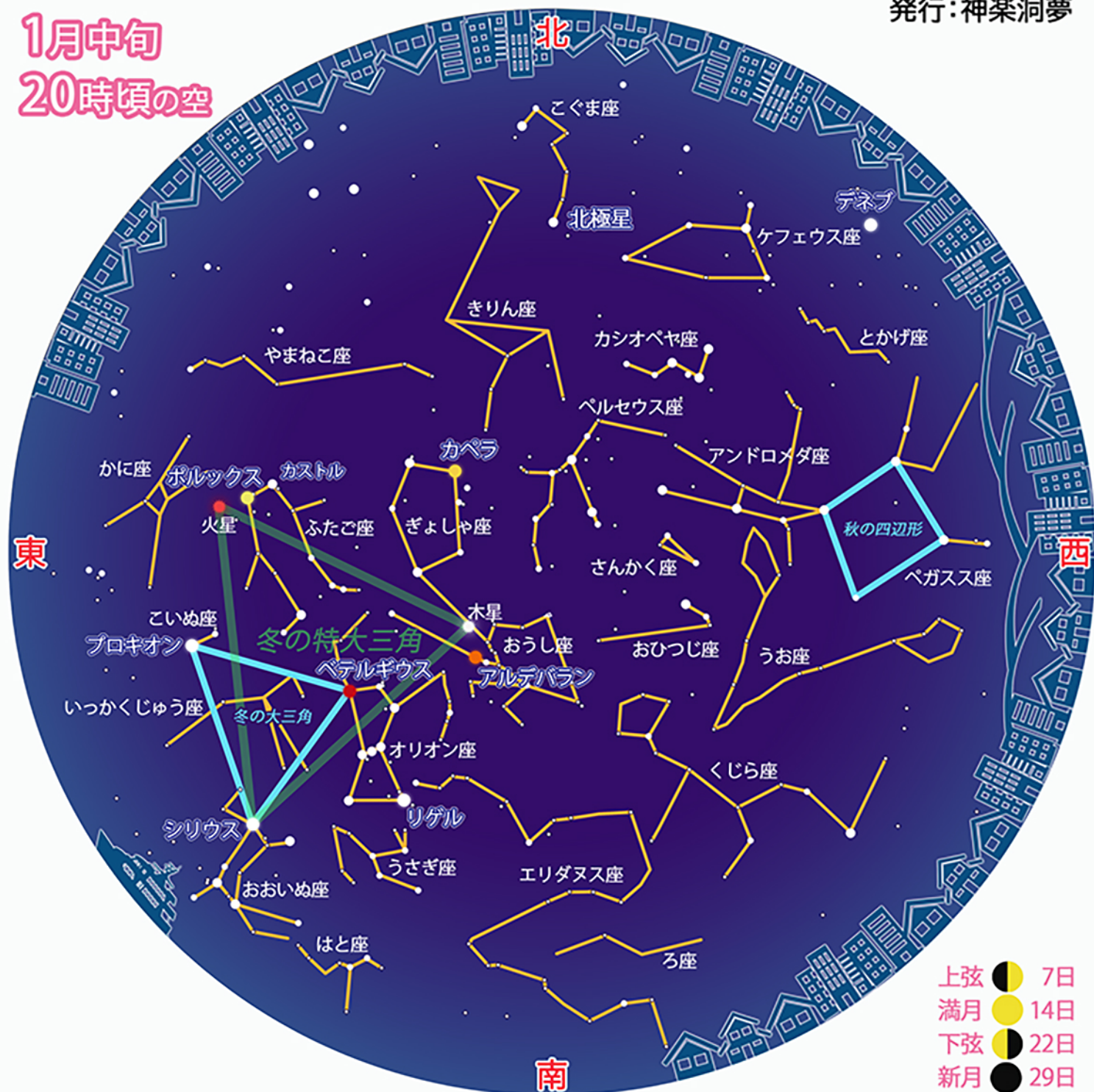


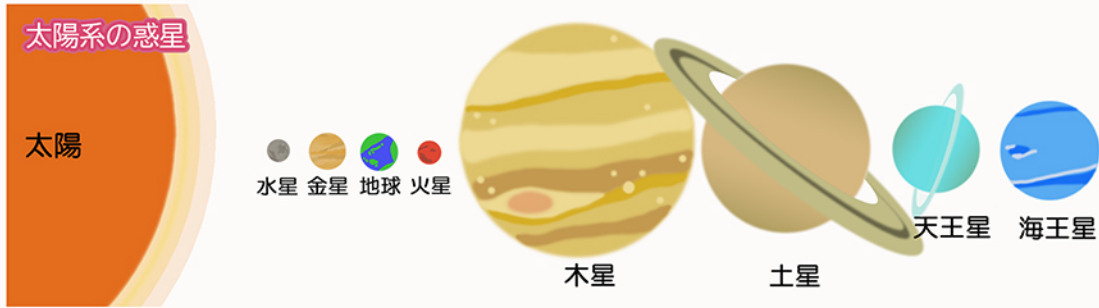
1月中旬
20時頃の空



1月中旬頃、南の空に一際明るく輝く木星を見つけると、その左下に砂時計のような形をしたオリオン座の星並びを見つけることができます。オリオン座の「ベテルギウス」、おおいぬ座の「シリウス」、こいぬ座の「プロキオン」をつないで「冬の大三角」を描けます。今年はこの三角だけでなく、東の空に赤く輝いている「火星」と、「木星」と「シリウス」を結ぶと冬の大三角よりも巨大な「冬の“特大”三角」を描くことができます。惑星の位置は毎年変わるので、今年だけの星並びをぜひ探してみてください。

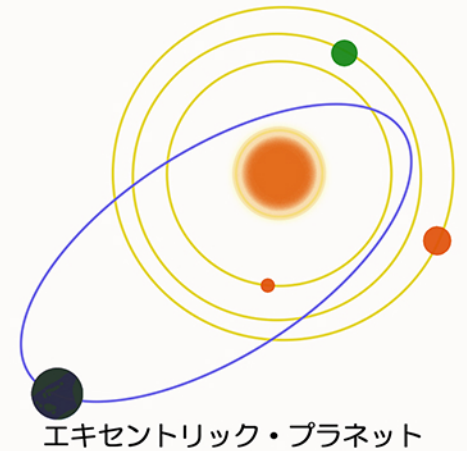
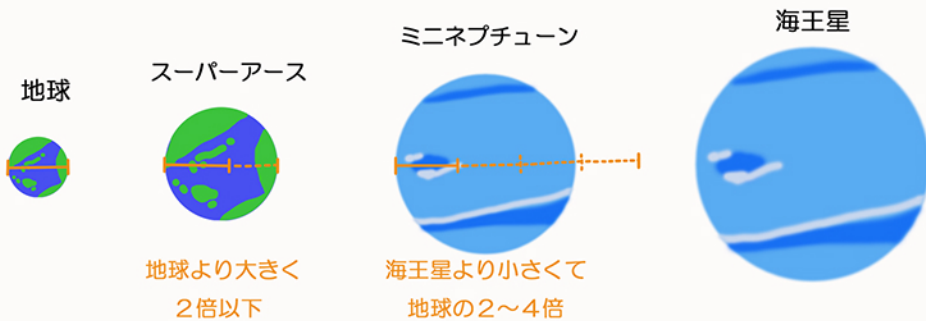
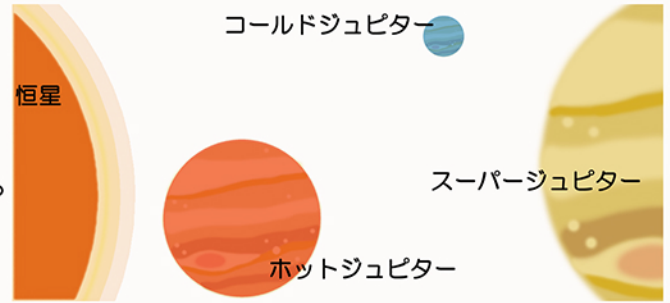
系外惑星ってなに？

太陽の周りには地球も含めて8個の惑星があります。この8個の惑星とその他の太陽の周りを周る天体を含めて「太陽系」いいます。そして太陽と同じように惑星を持つ星がたくさん見つかっています。その太陽系の外で見つかっている惑星のことを「系外惑星」といいます。



どんな系外惑星が見つかっている？

今まで系外惑星は5000個以上発見されており、色々な種類の惑星が見つかっています。最初に発見された系外惑星は、木星くらいの大きさがあり、見つかった恒星から近いところを周っているので、温度が高く、「ホットジュピター」と名付けられました。逆に恒星から離れていて、温度が低い木星のようなガス惑星を「コールドジュピター」、そして、木星より大きなガス惑星を「スーパージュピター」といいます。



木星のようなガス惑星以外にも地球のような岩石惑星や天王星や海王星のような氷で覆われている惑星も発見されています。地球の数倍の質量をもつ岩石惑星を「スーパーアース」、スーパーアースよりも大きく、海王星よりも小さい氷惑星を「ミニネプチューン」といいます。惑星の温度や成分、大きさ以外にも、軌道が大きく楕円を描いている惑星も多く発見されており、「エキセントリック・プラネット」と呼ばれています。また恒星の周りを周っておらず、宇宙空間を漂っている「自由浮遊惑星」もあります。いろいろな種類の惑星がありますが、もし訪れるならどの惑星に行ってみたいですか？

